

<b>柔道整復演習Ⅱ</b>		<b>演習</b>	<b>教授 西川 彰</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>柔道整復師コースの専門選択科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>12361306</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

柔道整復師国家試験で出題される科目の中で出題率の高い「解剖学」の理解を深めることを目的とする。そのため、過去の国家試験問題の演習を通して出題傾向の高い項目や学習のポイントを理解すると同時に、配布するオリジナルプリント教材を用いてキーワードとなる重要語句の確認と暗記すべき項目の整理を行う。

### 2. 授業の進め方

関連する科目として「人体構造学Ⅰ・Ⅱ」「人体構造学実習」で学んだ学習内容から、特に国家試験での出題傾向の高い項目を取り上げて授業を実施する。また、国家試験問題の解説を記入した「国試問題レポート」を作成し提出課題とする。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス 人体解剖学概説（細胞，組織，器官，発生）	8. 呼吸器
2. 運動器①（頭部・体幹）	9. 泌尿器・生殖器
3. 運動器②（上肢）	10. 内分泌器
4. 運動器③（下肢）	11. 神経系①（中枢神経）
5. 循環器	12. 神経系②（末梢神経）
6. 消化器①（消化管）	13. 感覚器
7. 消化器②（付属器官）	14. 体表解剖，映像解剖
	15. まとめ

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布する国家試験の過去問題に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削，採点を行った上で返却する。また，定期試験については正答と問題の要点を希望者に配布する。

### 6. 授業における学修の到達目標

本授業では，柔道整復師国家試験の合格基準を満たす知識レベルまでの到達を目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

平常点（レポート）（約30%程度）並びに定期試験の結果（約70%程度）より総合的に評価する。

### 8. テキスト・参考文献

野村巖 監修，西川彰／小林直行 著，『解剖学ワークブック』，医歯薬出版，2014年  
その他の参考資料は，必要に応じて授業中に紹介または配布する。

### 9. 受講上の留意事項

毎回の授業時にはテキスト並びに配布プリントを必ず持参すること。  
講義回数の3分の1以上を欠席した場合は，定期試験の受験資格を失うこととする。

### 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は，人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。